



# ダノンデサイル Danon Decile

牡 栗毛 2021.4.6生  
北海道千歳市 社台ファーム生産  
馬主・株ダノックス 栗東・安田翔伍厩舎  
馬名意味・冠名+母名の一部

トップデサイルUSA系 F22-b

エピファネイア 鹿毛 2010	シンボリクリスエスUSA 黒鹿毛 1999	Kris S. Tee Kay
	シーザリオ 青毛 2002	スペシャルウィーク キロフプリミエールGB
トップデサイルUSA Top Decile 栗毛 2012	Congrats 鹿毛 2000	A.P.Indy Praise
		Forestry Barefoot Dyana
	Sequoia Queen 黒鹿毛 2004	

5代までのインブリード：Roberto S4×M5 Seattle Slew M4×S5  
Northern Dancer S5×M5

## INTERVIEW

後藤夕輝 調教厩舎長(社台ファーム)

### どこまで強くなるのか楽しみは尽きません

基礎馴致からの付き合いになりますが、キャンター調教を開始した直後から運動センスの高さはひと際目につきました。設定したタイムを常に簡単にクリアしましたし、脚力の強さは相当でした。安田翔伍厩舎の皆さんと横山典弘騎手の教育でレースにおける礼儀作法を叩きこまれ、1戦ごとの進化が頼もしく、さらに成長が伴えばどこまで強くなるのか楽しみは尽きません。

T.Miki



新春林のフローザホンと同じエピファネイア産駒の本馬は昨年10月にデビューし、2戦目に初勝利。続く京都2歳Sでも小差の4着に追い込み、素質の片鱗をアピールした。心身ともに成長途上で、この日も若さを覗かせた半面、一戦毎に着実な進境も示して重賞ウイナーの仲間入り。2022年のセレクトセール1歳市場で億の値がついた(落札価格は税抜き)億3500万円(高額馬の前途は洋々としている。

## 父エピファネイア

北海道安平町 ノーザンファーム生産 詳細はP.6参照

## 母トップデサイルUSA

北米、加9戦2勝(BCジュベナイルフィリーズ・米G<sub>1</sub>2着、アルシバアディーズS・米G<sub>1</sub>2着)、17年輸入

トップザビル(18 牝父American Pharoah) 持込 中央19戦2勝、地方12戦1勝(東京シンデレラマイル2着)

スタティスティクス(19 牝父ハーツクライ)中央17戦2勝 @

ディセニウム(20 牝父ダイワメジャー)不出走

**ダノンデサイル** 本馬(21 牝父エピファネイア)中央4戦2勝(京成杯<sup>Gm</sup>)獲得  
総賞金53,132,000円

(22 牝父イスラボニータ)

(23 牝父モーリス)

## 祖母セコイアクイーン Sequoia Queen

アメリカ産 北米2勝

ワンインアミリ One in a Milli(09 牝父Afleet Alex)北米1勝

シェイラテキーラ Sheila Tequila(10 牝父Kafwain)北米3勝、ミスビタ  
ーズ Miss Bitters(ルイジアナフューチャリティ・米2着)の母

ハーバーバウンド Harbor Bound(11 驢父Rockport Harbor)北米1勝

**トップデサイルUSA**(12 前出)

トップティアラ Top Tiara(13 牝父Archarcharch)北米2勝

ジンジャ Ginja(18 牝父Quality Road)北米1勝(ラッキースペルS 3着)

コマンドーコンプトン Commander Compton(19 驢父Congrats)北米1勝

フォレストチャイズ Forest Chimes(20 牝父Tonalist)北米1勝

## 曾祖母ベアフットダイアナ Barefoot Dyana

アメリカ産 北米9勝(クリーヴランドオークス・L、インプS・L、マディソンカウンティH、ウィンターグリーンS、ウインターグリーンS、ランプリングローズS、ラスカルS、ゴールデンロッドS<sup>G3</sup>2着、ウインターグリーンS・L2着)

グラスサンダーUSA(03 牝父Forestry)中央1勝

セコイアクイーン Sequoia Queen(04 前出)

## 母の父Congrats Congrats

アメリカ産 北米、首7勝(サンバスカルH・米G<sub>2</sub>)

[BMS代表産駒]**カラヴェル** Caravel(BCターフスプリント・米G<sub>1</sub>、父Mizzen Mast)、**シーデアズザデビル** Shedaresthedevil(ケンタッキーオークス・米G<sub>1</sub>、父Daredevil)、**フォーエバーヤング**(全日本2歳優駿<sup>Jr</sup>、父リアルスティール)

## 着実な進境も示した素質馬が重賞制覇

間隔をゆったりと空けて大目標の舞台に臨むローテーションが浸透した近年、1月のステップレレースは以前より重要性を増している。昨年はソールオリエンスが皇月賞制覇への一里塚とした京成杯には、今年も素質馬たちが集結。デビュー2連勝中のジュンゴールド、アーバンシックスが人気を分け、大物感溢れる走りで新馬戦を勝ち上がった良血馬(牝馬)三冠馬アパバネの産駒)バードウオッチャーが2頭に次ぐ存在と目されたものの、勝利の重配は重賞好走歴を持つ1勝馬ダノンデサイルにあがった。

主導権争いはスナナリと決着。落ち着いた流れでレースが進むなか、大外枠から軽快に飛び出したダノンデサイルの横山典弘騎手は4、5番手の外に位置を取る。ジュンゴールドは力みが目立つ走りでその直後につけ、バードウオッチャーがその内を追走。ダツシユがつかなかったアーバンシックスは中団馬群の後方で末脚を温存し、向正面から徐々に進出を開始した。  
迎えた直線、2、3番手を追走してきたコスモブッドレア、ハヤテノフクノスケが逃げ馬をかわし、残り200m地点からは2頭の追い比に。しかし坂を駆け上がると形勢は一変し、鋭い決手を繰り出したダノンデサイル、アーバンシックスが一気に強襲。4コーナーで少し外に膨れたものの、態勢を立て直されてからは目を引く脚勢で伸びたダノンデサイルが、アーバンシックスの追撃を抑えてゴールに飛び込んだ。  
フェアリースのイフェイオン、日経